

# 福祉タクシー制度の拡充を

## 田中はじめ市議代表質問②



田中はじめ市議員

田中はじめ市議は2月28日、2月市議会代表質問で、市長の政治姿勢（日米地位協定改定）、原発問題、新型コロナウイルス感染症対策、市民生活支援の4つのテーマで上定昭仁市長に質しました。田中市議は市民生活支援に関して、福祉タクシーについて、「市民から改善の強い要望がある。市町村合併前の制度で

あり、合併前の旧市内の移動距離で設定された支援金額が、合併後の周辺市町村からのタクシー利用料金に見合わない実態の改善や、使用目的制限の緩和などが求められているのではないかと。拡充の方向に踏み出す考えはないか」と質しました。

次に田中市議は、一人暮らしの高齢者に貸し出されている緊急通報装置の無償貸与が終了した問題を取り上げ、貸与復活か民間業者と契約する際の支援拡充を求めました。これに対し、上定市長は、「現在の貸与事業については令和元年12月末で事業を廃止したが、引き続き、民間事業者のサービスを利用する際の装置設置費を助成することで高齢者の安心・安全を確保したい」と答えました。

これに対し、上定市長は、「現在、障がいのある方の移動手段に係る支援について設けているタクシーや路線バスなどの利用助成制度について、令和4年度に対象者全員にアンケート調査を実施し、その結果や中核市及び県内他自治

体での支援状況も踏まえ、拡充の是非や内容を検討したい」と答えました。

# 保育士の配置基準の見直しについて

## 舟木けんじ市議一般質問②



舟木けんじ市議員

舟木けんじ市議は、2月議会一般質問で、保育士の配置基準の見直しについてとりあげました。「保育士の配置基準は長年改訂されず、市内保育関係者から毎年改善を求める要望が出されている」「感

で、現行の保育士の配置基準の改善は待たないと考える」「現在多くの保育園が最低基準に上乗せ保育士を配置していると思われるが本市の実態はいかがか」「低年齢児、特に1歳児の基準を独自に改善している自治体もある。国に要望するだけでなく市として独自に改善する考えはないか」と質しました。

林忠典子育て部長は「職員配置基準は、国の制度として取り組むべきと考えており、国の責任において財源を確保し、実施するよう全国市長会を通じて引き続き国に要望し

たい」「本市として年度中途の0歳児の受け入れに対応するためあらかじめ余剰の保育士を確保した私立保育所への一部経費補助を行い、昨年度95名の保育士を確保した」「障がい児受け入れのため保育士を加配した私立保育所に県補助額に上乗せして補助金を交付している。昨年度は25施設に交付した」「島根県が実施した調査によると、昨年12月1日での配置基準による保育士数は553人、当日の勤務表での保育士数は717人で充足割合は130%となっている」と答弁しました。

たちらばなふみ市議は2月議会①島根原発②コロナ禍の保育の確保について③子ども食堂④学校制服⑤中海について一般質問しました。②について報告します。



たちらばなふみ市議員

おおよぶコロナ禍の中、保育現場は、密にならざるを得ない環境の中、子供たちの発達を支え、子育て世代の働く人々

の生活を支えている」と指摘。昨年大雨や台風経験から、「災害時には、小学校区毎などに保育園が連携するなどの仕組みを考えてほしい」と声があると紹介。厚生労働省が、新型コロナ禍で休園となった子どもを他の園や公民館などで預かる「代替保育」を確保するために新たな財政支援策を発表。「他の自治体では代替保育を公民館で行うなどの対策がされている」「医療や介護、福祉といったエッセンシャルワーカー確保のためにも、代替保育の拡充が急務」と市の対応を質しました。

また、「新型コロナウイルス感染症による小学校休業等対応助成金、支援金」について小学校だけでなく、休園となった保育所等でも対応すべきと質しました。

林忠典子育て部長は「代替保育は保護者がともにエッセンシャルワーカーであるか、ひとり親である場合に必要があると考えている。現段階では休園中の保育園で体制が整い次第受け入れている。代替保育はリスクや人員も考慮しながら慎重に検討する。小学校休業等対応助成金及び支援金については、情報が行き渡るよう各保育施設にお願いした」と答弁しました。

ス感染症による小学校休業等対応助成金、支援金」について小学校だけでなく、休園となった保育所等でも対応すべきと質しました。

# どうする島根原発？みんなで決める松江の会が活動の継続を決定

「どうする島根原発？みんなで決める松江の会」が3月20日、市民活動センターで報告会を開催し、40名が参加しました。

事務局の経過報告に続いて3人の共同代表から「署名活動によって市民の関心を高めることが出来た。住民投票をとりくんだ4つの会で共同アピールを出せたことは画期的だった」（秋重氏）「市民の基本的権利を取り戻そうとして取り組んだ。民主主義の成熟度を少し高めることが出来たと思う。日頃からの運動を積み重ね、多数派を形成して

いくことが必要」（岡崎氏）「街頭に出て対話していくことは、双方の運動、民主主義の学校。今後原発が動いても止まっても、日常活動が大切。歩みを止めないで頑張ろう」（水野氏）などと総括ととりくみの意義が報告されました。

「訂正」  
3月6日付2面松江生活と健康を守る会定期総会記事の片寄事務局長の提案中、介護保険に関する記述を以下の通り訂正します。「介護保険料滞納者が954人おり、介護サービスの利用制限などのペナルティーを受ける加入者が今後増える可能性がある」と問題提起しました。

その後事務局から「今後とも会を継続し、住民自治を進める取り組みを進めたい。再稼働の賛否を問わず、勉強会や意見交流できる機会を設けた」との提案に対し活発な意見交換が行われ、提案通り活動継続が決まりました。

「その後事務局から「今後とも会を継続し、住民自治を進める取り組みを進めたい。再稼働の賛否を問わず、勉強会や意見交流できる機会を設けた」との提案に対し活発な意見交換が行われ、提案通り活動継続が決まりました。



報告する岡崎由美子共同代表

# コロナ禍・子育て世代を支える保育の確保を

## たちらばなふみ市議一般質問②